

2025 年度 計測会総会発言録

(司会小澤)

それでは、ただいまより 2025 年度の計測会総会を開催いたします。最初に計測会会長の挨拶です。寺倉さんよろしく願いいたします。

(会長寺倉)

計測会会長の寺倉です。本日は計測会の総会にご参加いただき、ありがとうございます。日頃より会の活動にご理解とご賛同を賜り、感謝申し上げます。まず、ご来賓の紹介をいたします。名古屋工業会から理事長の横山様、名古屋工業大学から理事・副学長の柿本様、理工工学科応用物理分野長の岩田様にご臨席いただいております。お忙しい中、誠にありがとうございます。

本総会は例年通り、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催しています。講演会には学生が多数参加予定で、対面では約 70 名、オンラインを含めると約 110 名の参加申し込みをいただいております。今回は第 1 回卒業生をはじめ 80 代の方々、6 名にもご参加いただいております、皆様のご健在を嬉しく思います。

会の活動についてご紹介します。総会は会員の親睦を深める大切な取り組みであり、役員一同が準備を進めてまいりました。対面会場では講演会と懇親会も予定しておりますので、ぜひお楽しみください。もう一つの取り組みとして、学生支援活動があります。名古屋工業会の会報「ごきそ」に計測会の活動を寄稿しており、夏号では海外で研究発表を行う学生への支援金制度について紹介しています。博士課程の学生に対し国際会議での発表に際し 1 人 5 万円、年間 2 名に給付しています。2024 年度は麦田大悟さん（博士後期課程）と中村泰晴さん（博士前期課程）に給付しました。お二人からは体験記をいただいております、計測会のホームページに掲載しています。この制度は今年で 3 年目となる新しい取り組みで今後も継続、定着を目指してまいります。引き続きご支援をお願い申し上げます。

もう一つの活動は、計測会賞の授与です。2024 年度は小池脩友さんに授与しました。毎年卒業式の日に合わせて実施しており、今後も継続して価値を高めていきたいと考えています。

本日の講演会では、加賀電子株式会社代表取締役 会長執行役員の塚本勲様にご登壇いただきます。興味深く楽しいお話が聞けることと思います。講演会は応用物理分野との共催、名古屋工業会の後援をいただいております。厚く御礼申し上げます。最後に、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、挨拶とさせていただきます。

(司会小澤)

ありがとうございました。続きまして、来賓の方々からご挨拶をいただきます。名古屋工業会理事長の横山様、よろしく願いいたします。

(横山理事長)

皆さん、こんにちは。名古屋工業大学の全学同窓会である名古屋工業会の理事長を務めております横山です。本日は計測会の総会にお招きいただきありがとうございます。寺倉さんのリーダーシップのもと、大変活発な活動をされていることに感謝申し上げます。

名古屋工業会について少しご紹介します。現在、会員は約 2 万人です。卒業生全体ではご存命の方が 7 万人ほどいらっしゃると思いますが、そのうち 2 万人ほどが工業会に加入されています。工業会は本部と各地方支部を中心に活動しており、計測会をはじめ、機械、建築、土木などの各学科ごとの「単科会」と呼ばれるグループでも活発な活動が行われています。中でも計測会の皆さんは特に活発に活動されており、大変ありがたく思っています。工業会は全学同窓会ですので、私が理事長に就任してから特に力を入れているのは、卒業生同士のつながりをいかに維持・促進するかという点です。名古屋工業大学は英語で「Nagoya Institute of Technology」略して NIT と呼ばれますが、名古屋工業会ではこの NIT をもじって「仲間といつまでもつながろう」というキーワードを掲げています。

もちろん各支部会などに参加していただくのも大切ですが、卒業生同士がつながる場をどのように提供できるかが重要だと考えています。会員 2 万人のうち、約 1 万人は 35 歳以下の若い世代です。そうした若い方々が参加しやすいつながりを作ることが課題です。支部会だけでなく、計測会のような単科会、クラブ活動の OB 会、同期の仲間など、さまざまなつながり方があります。共通項を持った人たちが集まり、交流の輪が広がっていけば、全体の輪も大きくなっていくと考えています。

最後に 2 つお願いがあります。1 つ目は、名古屋工業会のホームページをご覧いただきたいということです。以前は「ごきそ」を見るのにパスワードが必要でしたが、現在は不要になりました。リモートでご参加の方も含め、ぜひホームページを開いていただき、支部会の案内や過去の「ごきそ」などをご覧ください。現在は夏号が掲載されていますが、まもなく秋号も発行予定です。先日、学生 8 名と社会人 7~10 年目の若手 15 名ほどで座談会を行い、大変盛り上がりました。その様子も記事にしていますので、ぜひご覧ください。2 つ目のお願いは、ぜひいろいろな方とのつながりを持っていただきたいということです。コロナ以降、学生が就職してからの交流が希薄になってきています。せっかく卒業したのですから、先輩が後輩に声をかけ、面倒を見るというと語弊があるかもしれませんが、そこでまた新たなつながりの輪を作っていただければと思います。そうした活動が名工大卒業生全体の活性化につながると信じています。

本日はこのあと塚本さんのご講演もあるとのことで、私も大変楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(司会小澤)

ありがとうございました。続きまして、名古屋工業大学副学長柿本様、よろしくお願いいたします。

(柿本副学長)

名古屋工業大学理事・副学長の柿本でございます。私は主に研究企画を担当しており、本日は学長の小畑の代理として出席しております。計測会総会にお招きいただき、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

さて、本日は母校の動向についてお話する予定でしたが、急遽、今朝話題を変更いたしました。お気づきの方もいらっしゃるかと思いますが、本日の中日新聞第一面に本学の記事が掲載されております。その他のマスメディアでも昨日から報道されております。内容は、学生の授業料について、来春から学部生は 20%、大学院生は再来年度の新規入学生を対象に 20%の値上げを行うというものです。地方大学としては全国で初めての値上げとなり、注目を集めております。一部の報道や SNS では誤解を招く内容も見受けられ、OB・OG の皆様にはご心配をおかけしているかもしれません。そこで少し背景をご説明させていただきます。まず、本学の経営が苦しいということではありません。年間約 120 億円強の運営資金で大学を運営しており、国からの運営費交付金が約 50 億円、学生納付金が約 35 億円、外部資金（共同研究等）も約 35 億円となっています。ただし、外部資金は用途が限定されており、施設整備や日常的な設備更新には使えません。また、運営費交付金の多くは教職員の給与に充てられており、自由に使える部分は限られています。2004 年の法人化以降、国からの運営費交付金は年々減少しており、近年は低水準で推移しています。こうした状況の中で、AI 技術との連携を含めた教育改革を進めるためには、新しい教育施設や設備、ソフトウェアの更新が不可欠です。これらを実現するために、今回の授業料改定という経営判断に至りました。授業料は教育・研究の充実に使われ、人件費に充てることはありません。報道の一部に誤りがあることを改めて申し上げます。また、OB・OG の皆様からの寄付金などに支えられていることも事実であり、今後ともご支援をお願いしたいと思っております。繰り返しになりますが、今回の値上げは経営難によるものではなく、未来への投資としての判断です。もし周囲で本学の記事をご覧になった方がいらっしゃいましたら、ぜひご説明いただければ幸いです。来年度以降、名工大への入学を希望される方々には、充実した教育・研究設備を提供できるよう努めてまいります。引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

簡単ではございますが、計測会総会にお招きいただいた御礼として、現状の名工大の経営状況についてご説明させていただきました。どうぞよろしく願いいたします。

(司会小澤)

柿本様、ありがとうございました。続きまして、名古屋工業大学物理工学科応用物理分野長の岩田様、よろしく願いいたします。

(岩田先生)

こんにちは、応用物理分野の岩田です。この度、計測会総会にお招きいただきありがと

うございます。先ほど寺倉会長からもお話がありましたように、計測会様からは応用物理分野の成績優秀学生に対して計測賞を授与していただいたり、学生の海外研究発表に対する支援給付金をいただいたりと、大変お世話になっております。この場を借りてお礼申し上げます。今後の計測会のますますのご発展と、本日の総会講演会の成功を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(司会小澤)

続きまして活動報告です。野村さん、よろしくお願いたします。

(副会長 野村)

皆さんこんにちは。活動報告をいたします。資料の上半分が過去一年の活動実績、下半分が今後一年の活動計画です。活動実績として、2024年度計測会総会講演会を昨年9月28日に実施しました。メールマガジン「計測会報」は2025年1月号、2月号、6月号の3回発行しました。ホームページには2020年度総会講演会の報告、計測会賞授与の報告、会員からの寄稿3件、学生からの寄稿2件を掲載しました。学生の寄稿は海外研究発表を行った大学院生によるものです。名古屋工業会機関紙「ごきそ」には2024年秋号から2025年新春号、夏号の3回、計測会の活動紹介として寄稿しました。年間4回のうち3回寄稿しています。計測会賞は3月26日の卒業式後に授与しました。卒業生には計測会紹介パンフレットを配布し、入会を呼びかけています。名簿が一括で入手できないため、学生に個別にアピールし、メールアドレスをいただいた方にメールマガジンを送っています。海外研究発表支援金は大学院生2名に給付しました。2025年度計測会総会講演会は本日実施しています。

今後の活動計画として、2026年度も総会講演会をオンライン併用で開催予定です。ホームページを活用し、会員間の情報交流を進めます。近況報告や大学のトピックス、講演会録などを掲載し、会員の皆様からの寄稿を歓迎します。簡単な文章と写真を送っていただければ、こちらで原稿を作成します。

メールマガジンは年3回程度配信予定です。役員会からのお知らせ、トピックス、ホームページ掲載記事の紹介などを含みます。学生への支援活動として、講演会は学生が興味を持てる夢のあるテーマにし、海外研究発表者への支援制度を継続します。名古屋工業会機関紙「ごきそ」への寄稿も積極的に行います。以上です。

(司会小澤)

続きまして、決算報告です。会計の西村さん、会計監査の守田さん、よろしくお願いたします。

(会計 西村)

2024年度予算と実績、2025年度予算について報告いたします。2024年度予算は、

前年度からの繰越金 1,013,395 円、運営協力金、名古屋工業会からの支援金、懇親会の会費などを含め、総額 1,383,395 円でした。支出は約 472,000 円で、2025 年度への繰越予定金は 911,395 円でした。実績として、運営協力金は 399 口、70 名から 399,000 円の収入がありました。名古屋工業会からの支援金は 50,000 円、懇親会収入は 108,000 円、普通預金利息は 552 円で、収入合計は 1,570,947 円でした。支出は総会講演会・懇親会費用 179,214 円、学生支援費 116,236 円、役員会交通費 36,070 円、ホームページサーバー維持費 17,353 円で、合計 348,873 円。2025 年度への繰越金は 1,222,074 円となりました。

2025 年度予算案は、繰越金 1,222,074 円、運営協力金 250,000 円、名古屋工業会からの支援金 50,000 円、懇親会収入 150,000 円で、収入合計 1,672,074 円。支出は約 502,000 円を予定しており、2026 年度への繰越予定金は約 1,170,000 円です。

今年度も運営協力金のご支援をお願いしたく、過去の平均から約 250,000 円の協力金を目標としています。振込先は三菱 UFJ 銀行鶴舞支店、店番・口座番号 3609201、西村宛です。予算全体の繰越金推移をグラフ化した資料もあります。3 年前まで減少傾向でしたが、運営協力金の呼びかけにより回復しつつあります。今後も年間 100 万円以上の繰越金を維持したいと考えています。振込は一口 1,000 円、3 口以上でお願いしております。

以上が報告です。監査について森田さんから報告をお願いします。

(会計監査 守田)

9 月 15 日に監査を実施し、関連書類を精査した結果、適正かつ正確に処理されていることを確認しました。以上です。

(司会小澤)

ありがとうございました。

続きまして役員紹介です。寺倉さん、よろしく申し上げます。役員の方は全員、壇上に上がってください。

(寺倉会長)

壇上に上がっているのが計測会の役員全員です。私を含めて 13 名で、本日新たに加わった新人もおります。このメンバーで総会や会の活動を行っています。それでは、向こう端から名前と一言申し上げます。

(各役員が自己紹介)

このメンバーで計測会を運営してまいりますが、役員だけでは会の運営は成り立ちません。皆様の日頃のご支援が不可欠です。今後ともご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。以上で役員紹介を終わります。壇上に全員が上がったと思いましたが、東京支部

の小川さんがまだでした。小川さん、お願いします。私は F52 の小川です。リモート参加が多いため、リモート役員ということでお願いします。また、大阪支部の坂尾さんも本日は参加されています。これで全役員の紹介を終えます。よろしくお願いします。

(司会小澤)

続きましてスピーチをいただきます。まずは Zoom で参加されている小野田勝洋さん、よろしくお願いします。

(小野田さん)

皆様こんにちは。計測第 1 回生の F39 小野田です。今日は同じく第 1 回生の重田さんと Zoom で参加しています。計測工学が始まったのは昭和 35 年 1960 年ですので、今年で 65 年が経過しました。私は 83 歳になりましたが、元気に暮らしております。2025 年度の計測会総会と講演会の開催、誠にありがとうございます。開催に向けてご尽力いただいた役員幹事、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本日の講演会では塚本さんのお話を楽しみにしております。記憶は時間とともに薄れていきますので、記録に残すことが大切です。数年前、計測第 1 回生の記憶を記録にまとめる取り組みを行い、「F39 の軌跡、来た道筋」という冊子を作成しました。4 年間のまとめと、仲間の仕事や暮らしを記録したもので、10 人ほどが個人誌のような詳細な内容を綴ってくれました。この冊子を読み返すたびに、我々がこの 65 年間にわたり時代を作るのに参画し、また時代に育てられたことを実感します。その根底には計測があると感じています。継続がすべての基盤であることを、計測工学科で教えていただいたことに感謝しています。計測会が今も継続していることは素晴らしい、「継続は力なり」という言葉の通り、今後も活動が充実していくことを願っております。来年の計測会総会で皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。よろしくお願いします。

(司会小澤)

ありがとうございました、小野田さん。冊子についてはホームページなどで紹介できればと思いますので、またご相談させてください。続きまして、会場にお越しいただいている後藤敬典先生、よろしくお願いします。

(後藤先生)

40 年卒業の後藤です。今日はプログラムに載っていなかったので、ゆっくりしていました。よろしくお願いします。私はラジオ少年として物心ついた頃から機械が好きで、産総研や物材研での仕事も含め、ずっと続いてきています。今でも毎日 5~6 時間はパソコンを使っていますが、時々疲れて横になり、回復したらまた作業を再開しています。コンピューターは苦手ですが、ハードウェアは昔から得意で、インターフェイスを自作して他の研

研究室に提供したこともあります。ハンダ付けの技術には苦労しました。見た目はついていても実際には接続されていないことがあり、それを見つけるのが重要です。今苦労しているのはExcelです。タイミングのわずかな違いで動作が変わることがあり、ハードとソフトの両方に課題があると感じています。昔、計測の4階にあったハイタック103というコンピューターを使っていました。点一つで全てが台無しになるような厳しい環境でした。その後、日立のコンピューターやカシオのリレー計算機も使いましたが、騒音がひどく、話ができないほどでした。

名工大ではハードウェア中心に研究を行い、産総研に持ち込んで海外の研究者と議論を重ねました。装置は0.5mm単位で調整できるもので、今も物財にありますが、管理が厳しくなり出入りできなくなりました。現在は1万本近いデータを整理しており、出版を目指しています。現場にいないと研究は進みません。今も現場にいるからこそできることがあります。いつか命が尽きる頃には少しは知られるかもしれませんが、今は数人の専門家に知られている程度です。それでも自分では美しい成果だと思っています。これも美学でしょうか。以上です。

(司会小澤)

後藤先生、ありがとうございました。これにて総会のプログラムはすべて終了いたしました。以上で計測会総会を終了いたします。講演会は3時から開始いたしますので、それまで休憩とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

-----講演会後の閉会挨拶-----

(司会小澤)

それでは閉会の挨拶を大鑄先生、よろしくお願いいたします。

(大鑄)

2時から始まりました計測会の総会とそれから特別講演会ということで、だいたい2時間半程度ということですが、だいぶ長丁場ではなかったかと思います。ご苦労様でした。今日の総会では、工業会の理事長の横山さん、名古屋工業大学の理事副学長の柿本さん、応用物理工学科の応用物理分野長の岩田さんに来賓のご挨拶をいただきました。どうもありがとうございました。

それから、我々の大先輩であります小野田さん(一期生)、後藤先生(二期生)にも、年を重ねた上での非常に含蓄のあるお言葉をいただきました。特に印象に残っているのが後藤先生の「私はまだ現場だ」という言葉の重みで、私があと5、6年経った時にああいう言葉が吐けるかどうか、ちょっと自信ないなと思いながら聞かせていただいております。加賀電子株式会社の塚本さんからは、非常に貴重なお話を聞かせていただきました。5000億の売り上げを達成して、普通ならそこで満足してしまいそうなところを、さらに1兆円

を目指すという姿勢。おそらくそれは達成され、次は2兆円か3兆円を目指すのではないかと、最近ちょっと疲れ気味だった私も、「疲れたなんて言っていられないな」と思いながら、非常に元気をいただきました。今日予定していたイベントはこれで終わりですが、あと一点、非常に重要な仕事があります。「ビール飲もうぜ」ということかと思えます。この後、役員の方から懇親会場までご案内いたしますので、それに従っていただければと思います。今日はどうもありがとうございました。心より感謝申し上げます。

(司会小澤)

それではこれにて2025年度計測会総会と講演会を終了させていただきます。
本日はありがとうございました。